



あなたの1歩は、
地球にとっての大きな1歩。



今日からできる SDGs



中小企業の 取組意義



① 社員のモチベーションアップ・成長

SDGsの取組みを通じて、「自社がいかに世の中の役に立っているか」という存在意義を明確にし、それらを社員にも共有することで、社員は自社を誇らしく思います。そうすれば、離職率が低下し、人材採用コストを抑制することが期待できます。また、自社の「ありたい姿」を社員が一緒になって考えることで、社員の成長にもつながるでしょう。

② 人材獲得

SDGsは採用にも影響します。SDGsに関心の高い若い世代にとっては、SDGsの1つでもある働きやすい職場であることはもちろん、仕事を通じて環境保全や社会課題の解決に貢献できることに、企業としての魅力を感じます。

③ 取引縮小リスクへの対応

大企業によるSDGsの取組みが活発化すれば、その取引関係にある中小企業に対してもSDGsへの対応（温室効果ガスの削減、人権尊重に係る取組みなど）を期待することが想定され、未対応であれば取引を解消されるリスクがある反面、先取りすることで信頼度が増すことが考えられます。

④ 取引拡大チャンス の獲得

SDGsの達成に資する商品・サービスを創出することで、SDGsに関心の高い企業と新たに取引することができたり、既存取引先との取引の拡大につながったりすることも考えられます。

⑤ 消費者からの支持の獲得

若い世代を中心に、社会課題に取り組む企業を応援しながら消費するという「エシカル消費」が増加しています。SDGsは学校の教育課程でも取り扱われていることから、今後こうした考え方はさらに増えていくでしょう。



SDGsとは



●SDGsは、「Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標）」の略であり、経済、社会および環境の3つのバランスを取りながら、誰一人取り残さない、より良い世界の実現を目指す世界共通の目標です。2015年に国連で採択され、2030年を期限とした17の目標と、より具体的な169のターゲットで構成されています。

●SDGsでは、「持続可能な開発」がキーワードとなります。これは子どもや孫たちが安心して暮らせる経済、社会および環境を存続させていくことに配慮しながら、今を生きる私たちのニーズも満たしていこうというものであり、決して他人事ではありません。

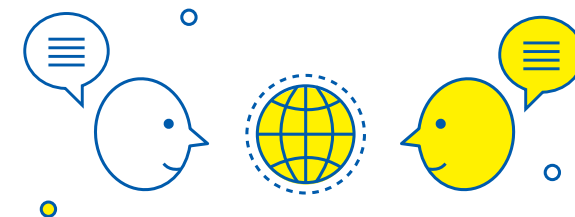
●私たちは、この考え方を基本として、「2030年にどのような会社になりたいか」「どのような社会課題を解決したいか」「ステークホルダーから何を求められているのか」を念頭に置き、その実現に向けて行動していくことが期待されています。

SDGsと 信用金庫



●信用金庫の基本理念である「相互扶助」は、SDGsの「誰一人取り残さない」という理念に大きく通じる点があります。また、信用金庫は「Face to Face」を掲げてお客様と接し、お互いによく理解した密接な関係の構築を心掛けています。

●このように地域に根差した信用金庫だからこそ、地域の皆さまとともに、地域の社会課題にきめ細かく対応していけるものだと考えています。



しばしんの SDGs 宣言

芝信用金庫は「SDGs」の理念に賛同し、協同組織金融機関としての社会的責任と公共的使命のもと、様々な金融サービスを通じて、関係機関との連携・協力を図りながら、地域経済の発展と社会的課題の解決、持続可能でよりよい社会の実現を目指します。（宣言日：2021年6月1日）



SHIBASHIN
芝信用金庫



しばしん
SDGs宣言



この製品は、適切に管理されたFSC®認証林からの原料材および再生資源から作られています。



印刷時に有害な廃液が出ない「水なし印刷」で印刷しています。

制作：信金中央金庫 協力：（独）中小企業基盤整備機構 発行日：2022年10月

本リーフレットは情報提供を目的としています。意思決定はご自身の判断でなさるようお願いいたします。
また、制作者が信頼できると考える情報等に基づいて作成していますが、正確性および完全性を保証するものではありません。

あなたのまわりのSDGs

1 人・組織・地域 編

SDGsは特別な活動ではありません。あなたもすでに、その一部を実践しているかもしれません。

SDGsをもっと身近に感じてもらうために事例を集めてみました。

これをヒントに、さあ、あなたも今日から信用金庫と一緒にアクションを！

人

① 働きやすい職場を作ろう！

3 5 8 10 16

●ワークライフバランスが取れるように、人事制度を整備しましょう。仕事と出産・育児・介護の両立を支援する制度を拡充したり、テレワーク、フレックス、副業などの柔軟な働き方を認めたり、「早帰りデー」を導入して長時間労働の抑制に努めたり、仕事の属人化を防ぎ休暇を取得しやすくしたりしましょう。

●メンタルヘルスに配慮しましょう。産業医やカウンセラーへの相談窓口を作ったり、職場での定期的なストレス診断を行ったりしましょう。”雑談”や“笑い”も職場環境には必要だと思います。

●社員のモチベーションを高めましょう。褒めることや感謝を伝えることから始めてみませんか。それらを社内でも共有するとより効果的です。

●業務効率化に努めましょう。急速冷凍機を導入したことで食品の長期保存が可能となり、余裕のある時間帯を有効活用できるようになった飲食店もあります。

② 社員の健康を考えよう！

2 3

●社員に健康で長く働いてもらうことは、人材採用面・育成面でメリットとなります。社員の健康に配慮して、健康診断の受診の徹底、がん検診の推奨、ワクチン接種の補助、受動喫煙防止対策、禁煙外来の補助などに取り組みましょう。

●社員の健康を考えた設備投資を検討してみましょう。安価かつ健康に配慮した食事がとれるよう社内食堂を設置したり、事業所内にスポーツジムを設置したりする企業もあります。こうした企業では、減塩・低カロリーのメニューの提供や、「運動推奨デー」の設定などの工夫ができます。

③ 多様な人材を生かそう！

1 4 5 8 10

●女性、高齢者、障がい者、外国人など多様な人材雇用は、人材確保になるほか、組織の活性化にもつながります。各々の得意分野や経験を生かして働いてもらったり、商品企画や業務改善で様々な意見を参考にしたりできます。また、力仕事であっても誰もが対応できるように機械化するなど、工夫を凝らしている企業もあります。

●外国人向けには、業務マニュアルの多言語化や日本文化・生活を含めたサポートを意識することが必要です。日本語表記もやさしい日本語を使いましょう。また、賃金や労働契約、労働環境などについて、改善の必要がないか再点検しましょう。

●新しく社屋を建築する際には、ダイバーシティの観点を持ってみましょう。障がい者の雇用を見据えて専用トイレやスロープを設置したり、子育て世代の働きやすさを考えて保育所を設置したり、女性の働きやすさに配慮して女性トイレや専用休憩室を作ったりする企業もあります。



④ 人材を育成しよう！

4 5 8 10

●社員を育てましょう。資格取得や社外研修の費用を会社が負担したり、社員がいつでも講習を受けられるように研修動画を作成したりする企業もあります。

●地域住民向けの教育にも貢献しましょう。商店街や学校、児童館で自社の知見を講義したり、職業体験会や工場見学会を開催したりすることもできます。



組織

① 事業の継続性を高めよう！

1 8 9 11 13

●事故、災害、感染症の拡大などに備えたBCP（事業継続計画）を策定しましょう。そして、定期的に訓練をして、“いざ”という時に備えましょう。また、訓練を通じて新たに認識した課題があれば、BCPを見直しましょう。●事業承継に備えましょう。社員や取引先にも迷惑がからないように、早め早めに専門家に相談しましょう。



② 公正な取引をしよう！

1 2 8 10 16

●貧困や飢餓の観点から、発展途上国で作られる原材料の購入に際して、「フェアトレード」を意識するのも1つの方法です。

③ 生産性を高めよう！

2 8 9

●IT化を進めましょう。これまで手作業で行っていたものをデジタル技術に置き換えることで労働時間が抑えられ、生産性が向上します。また、SNSや動画を活用したPRやセールスにもチャレンジしていきましょう。



地域

① 地域経済を盛り上げよう！

1 2 4 8 9 10 11 12

●地域の貧困改善に貢献しましょう。フルタイム労働を希望する人の積極的な正社員化のほか、短時間だけ働きたい人、自宅で働きたい人、障がい者などに業務を切り出すことができれば素晴らしいですね。フードドライブ（家庭で余っている食品を集めて寄附する活動）を行う企業も増えています。

●地域の資源を積極的に活用しましょう。地域の資源をブランド化して販売したり、地産地消に取り組んだりしましょう。新たな顧客層を獲得できるかもしれません。地産地消は輸送エネルギーの負担も減らせます。

●空き物件の有効活用を考えましょう。古民家や廃校をリノベーションして飲食店や宿泊施設にしたり、高齢者や子どもの憩いの場にして本業への集客につなげたりする企業もあります。

●地域の文化や産業を守るために、地域の伝統行事に積極的に関与しましょう。地域の産業を知ってもらうために、工場案内や会社説明などを住民向けに行う企業もあります。自社商品・サービスのPRにもつながります。

② 安心して住み続けられる地域をつくろう！

6 9 11 16

●地域の防災に貢献しましょう。防災活動への参加や、自社の資源の提供を考えてみましょう。自社の敷地が災害時の拠点となるように「かまどベンチ」を設置したり、避難者に配布する非常食や簡易トイレを備蓄したり、災害用自動販売機を設置したりする企業もあります。

●きれいな住みよい街を作りましょう。店周や人通りの多い駅前などで、有志を募って清掃活動を行う企業があります。継続することで、周囲からの温かい声が増えていくようです。